C－64　短大家政科の被服構成及び実習に関する研究（第4報）-Blouseに関する実態調査-

名古屋女大生研　荻野千鶴子　古川智恵子　○加藤恵子　皆川琴江

目的　被服構成及び実習においては，過去9ヶ年の教育による既習学力の差が問題になってくるため，本研究では他短大において，どのように実際面で指導されているかその現状を知り，また本学学生の実態もあわせ，調査を行ない指導上の一指針とすることを目的とした。

方法　(1)全国家政系短大へアンケート用紙を配布し，解答を求めこれを集計した。

(2)本学短大家政科の意識調査を行なった。

結果　1)　本学学生の意識としては，入学の動機は人格教養を高めるためが高率であった。家庭における衣生活の現状は母や学生の普段着は約½は既製服を利用されていたが，将来家庭に入ったら家族の普段着ぐらいは是非作れる技能を養いたいと希望するものが多かった。

2)　各短大の被服構成及び実習の細目については，一年ではスカート，ブラウス，2年ではスーツ，ツーピースが上位をしめていた。

3)　授業時におけるテキストの使用状況は，無記入をのぞき他は全部の学校が使用していた。またその種類には地域差がみられた。

4)　ブラウスの学校における縫製時間については，8～55時間であり，これらの時間の学校作業と家庭作業の比率をみると，7：3の割合が多かった。

5)　パターン教育をしていた学校は全体の約20％であった。